



豊後大野市小中一貫教育校緒方学園 緒方中学校学校だより

青雲の大志

令和6年5月27日

NO.42 文責 校長 内海真理子

【学校教育目標】 自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成

体育大会

心を開き、協力し合い、自分らしく頑張りました

5月18日（土）体育大会を実施しました。生徒は、春休み中から少しずつ準備を進めてきましたが、本格的な練習は連休明けからでした。短期集中の取組となり、不安や焦りを感じた様子も見受けられましたが、実行委員会を中心に毎日目標を立て、実践を振り返って修正したり工夫したりすることを誠実に重ねてきました。その取組の成果が発揮できた力強い体育大会となりました。以下、生徒の振り返りを紹介します。



9年 高山 景慧さん

自分にとって体育大会は、すごく成長できる機会が多いものになりました。実行委員長を初めて経験して、相手に伝える**メッセージ力**や全校を引っ張っていく**リーダーシップ**が特に成長したと思います。学年団体では、**団結力**なども付き、**体育大会前とは全く違う自分**になったと思います。



特に頑張ったことは、実行委員会や担当種目の練習です。実行委員長として、種目責任者として、責任をもって、仕事に抜けがないように頑張ってきました。

本番では、開閉会式がしっかりできてほしい、実行委員長としてのあいさつを成功させたいということで頭がいっぱいでした。当日は、どちらも無事に成功できてよかったと思います。また、出発係も全員しっかり仕事を果たしていたのでよかったと思います。総合成績では負けてしまったけれど、応援では4対1で勝つことができ、これまで練習してきた成果が発揮できたと思います。

スローガン「開放」は、みんなが心を開き合い、放ってほしいという思いがありました。このテーマは**自分自身の目標**でもありました。体育大会を通して成長し、**新しい自分**になれたと思うので、良い体育大会になったと思います。

9年 渡辺 百香さん

私は、あまり練習にも出られておらず、参加できなかった種目もありましたが、何より**団員同士の励まし合って、前を向いていく姿**が心に残りました。

後半戦、どうあがいても紅軍に負けるとほとんどの人が思い、テント内の空気は少し暗くなっていました。そこで、9年生を中心に「負けてもいいから、とにかく今は楽しもう！」「諦めたらそこで試合終了だぞ！」と皆に火を点ける姿が見えました。その姿は、黄軍にとっても、私にとっても救いだったと思います。

結果的に負けてしまいましたが、皆、最後まで体育大会を楽しめていました。**最後まで手を抜かなかった紅軍と、最後まで全力で楽しもうとした黄軍**、どちらも、今回の体育大会のテーマ「開放」を達成できたのではないのでしょうか。少なくとも私にとっては、中学校生活最後にふさわしい体育大会になったと思います。

